

日本地衣学会

No.59

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会務報告.....	207
	第4回大会(広島大学)の記録/出口博則・坪田博美・高橋奏恵.....	207
	写真館.....	209
	さて、何でしょう?/小林義弘・原田浩.....	209

会務報告 Report of the JSL Activities

第4回大会報告

Report of the JSL 4th Annual Meeting at Hiroshima University

出口博則(大会準備委員長)・坪田博美・高橋奏恵: 広島大学大学院 理学研究科 生物科学

日本地衣学会第4回大会およびシンポジウムを7月9～11日、東広島市の広島大学理学部で開催した。参加者は一般会員28名、学生会員11名、非会員4名の計43名で、これまでの大会で最も多い参加人数となった。

大会初日の9日午後に総会が開かれた。広島大学大学院理学研究科の坪田が議長に選出され、吉村会長の挨拶があった。山本庶務幹事より2004年度活動報告および2005年度事業計画遂行状況の説明があった。そのあと、いくつかの報告・協議事項の説明があり、その中に第5回大会の開催地(高橋氏を世話人として東京)の報告などがあった。

総会に引き続き、「地衣共生藻研究の最前線」と題して公開シンポジウムが開催された。なお、シンポジウムのテーマは開催地での提案も可能であったが、今回は山本庶務幹事をお願いした。はじめに、山本好和氏(秋田県立大)が「地衣共生藻の重要性」と題し、地衣類研究における共生藻の生理学的・生化学的研究の重要性について概説した。次に、原光二郎氏(秋田県立大)が「アンチゴケ属の分布と共生藻」について、菌類と藻類の共

生起源を解明するため分子生態学的アプローチを試みた研究例を紹介した。小杉真貴子氏(兵庫県大・院)は「地衣と共生光合成生物における乾燥耐性の比較」と題し、地衣類のもつ強い乾燥耐性は共生藻が本来もっている乾燥耐性機構に大きく依存していることを報告した。また、高萩敏和氏(京都大・院)は「地衣成分の共生藻光合成活性抑制」について、地衣酸の光合成的電子伝達系の阻害機構に関する研究成果を発表した。最後に永瀬裕康氏(大阪大・院・薬学研究科)が「地衣と藻類を用いた環境影響評価」と題し、動物用抗菌性物質がラン藻類およびラン藻共生の地衣類に対して生長阻害を引き起こすという実験結果を報告し、地衣類の環境指標生物としての有用性を強調した。

シンポジウム終了後、生協北1レストラン2階(同キャンパス内にある学生食堂)で懇親会が開かれた。40名近い参加があり、大変賑やかで楽しい時間を過ごすことができた。今回は韓国からHur Jae-Seoun氏と学生2名(Sunchon National University)が参加しており、日本の料理やお酒を楽しんで頂けたようである。

翌日は午前、午後にかけて研究発表が口頭発表形式で

行われた。地衣類の分類、系統、フロア、培養、生理など幅広い分野にわたり 19 演題が発表された。それぞれの発表に対し活発な質疑応答がなされ、さまざまな専門分野の研究者が互いに刺激を与え合った。各発表については、近く Lichenology に要旨が掲載されるのでそちらを参照されたい。

最後に来年の第5回大会（東京）での再開を約束して解散となった。今回大会を無事に終えることができたのも参加者ならびに会員の皆様のおかげである。また、開催にあたり広島大学理学研究科よりご支援を賜った。さらに広島大学植物分類・生態学研究室の学生の皆さんには、大会準備から当日に至るまで裏方の仕事を引き受けていただいた。お世話になった皆様にごの場をかりて心からお礼申し上げる。



図 1. 研究発表の一コマ。発表者は藤井洋光氏、座長は木下靖浩氏。撮影：原 光二郎。

◆シンポジウム 「地衣共生藻研究の最前線」

7月9日（土） 15:30-17:40

地衣共生藻研究の重要性 / 山本好和（秋田県大・生物資源）

アンチゴケ属の分布と共生藻 / 原光二郎（秋田県大・生物資源）

地衣と共生光合成生物における乾燥耐性の比較 / ○小杉真貴子・森山裕布・平井学・栗子野康浩・小池浩幸・佐藤和彦（兵庫県大・院）

地衣成分の共生藻光合成活性抑制 / ○高萩敏和・遠藤剛・佐藤文彦（京都大・院）

地衣と藻類を用いた環境影響評価 / ○永瀬裕康・安藤智紀・廣岡孝志（大阪大・院・薬）・江口 郁（農林水産省動物医薬品検査所）・山本好和（秋田県大・生物資源）・宮本和久・平田收正（大阪大・院・薬）

総合討論

◆研究発表プログラム

◇7月10日（日） 9:30-12:00 研究発表会（午前部）

山地帯に生育する *Ocellularia* (カコウゴケ属) について / 松本達雄（武田高）

台湾より記載された淡水生ミドリサネゴケ属（アナイボゴケ科地衣類）の一種 *Staurothele fauriei* de Lesd. について / 原田 浩（千葉県中央博）

アツバヨロイゴケ *Sticta wrightii* Tuck. (カフトゴケ科 Lobariaceae) について / ○高橋奏惠（広島大・院・理・生物科学）・Li-Song Wang（中国科学院昆明植物研究所）・坪田博美・出口博則（広島大・院・理・生物科学）

沖縄産スミレモドキ属2種 (*Coenogonium nigropunctatum*, *C. boninense*) の共生藻の 18S rRNA 遺伝子に基づく分子系統学的研究 / ○半田信司（財）広島県環境保健協会）・中原美保・坪田博美（広島大・院・理・生物科学）・新井章吾（(株)海藻研）・

原田 浩（千葉中央博）・中野武登（広島工大・環境・環境情報）・出口博則（広島大・院・理・生物科学）

日本産地衣類の研究 1. ツメゴケ属 / ○吉村 庸（服部植物研・高知）・原田 浩（千葉県中央博）

丹沢・大山（神奈川県）の地衣-その 1- いくつかの希少種について / ○木下靖浩（日本ペイント）・原田浩（千葉県中央博）

イトゲジゲジゴケモドキ *Heterodermia leucomelos* について / ○川又明德（愛媛県総合科学博物館）・吉村庸（服部植物研・高知）

Phylogenetic study of Korean lichen of *Nephroma* using ribosomal ITS-sequence analysis / ○Kwang-Mi Lim (Dept. of Biology, Suncheon National University), Soon-Ok Oh, Geon-Seon Han, Jae-Seoun Hur (Dept. of Environmental Education, Suncheon National University), Young Jin Koh (Dept. of Applied Biology, Suncheon National University)

◇7月10日（日） 13:00-16:00 研究発表会（午後部）

理科教育と地衣 / 田中慶太（崎戸中，長崎大教育）

Ramalina yasudae Räsänen および *Lecidea* sp. による流紋岩質凝灰角礫岩の生物学的風化現象 / ○渡邊克晃・安西紀恵・北川隆司（広島大・院・理・地球惑星システム）

食用地衣類由来の氷結晶制御物質の検索と機能解析 / ○竹村友伸・河原秀久・小幡 斉（関西大・工・生物工学）

地衣菌 *Tremolecia atrata* の銅耐性機構の解明 / ○藤井洋光（EN大塚製薬株式会社）・原光二郎（秋田県立大）・大貫敏彦（日本原子力研究所）・山本好和（秋田県大・生物資源）

地衣類の人工栽培 3 / ○小野静佳・小峰正史・山本好和（秋田県大・生物資源）

地衣類の抗菌活性 II / ○佐藤佳隆・武田瑞紀・原光二郎・小峰正史・稲元民夫・山本好和（秋田県大・生物資源）

Antibacterial and immuno-modulating activity of Antarctic lichen species / ○Jae-Seoun Hur, Soon-Ok Oh, Hae-Sook

Jeon, Geon-Seon Han (Dept. of Environmental Education, Suncheon National University), Kwang-Mi Lim, Sung-Tae Yee (Dept. of Biology, Suncheon National University), Young Jin Koh (Dept. of Applied Biolgy, Suncheon National University), Jee Hee Kim, Hosung Chung (Korean Polar Research Institute)

Antibacterial activity of Korean and Chinese lichen species against clinically important bacteria / O Soon-Ok Oh, Hae-Sook Jeon, Jae-Seoun Hur (Dept. of Environmental Education, Suncheon National University), Kwang-Mi Lim (Dept. of Biology, Suncheon National University), Young

Jin Koh (Dept. of Applied Biolgy, Suncheon National University)

地衣類の HPLC 分析から得られた新たな知見 / O山本好和・吉田卓紀・原光二郎・小峰正史(秋田県大・生物資源)・吉村庸(服部植物研・高知)

Amygdalaria panaeola の化学成分 / O高橋邦夫・木下 薫・小山清隆(明治薬大)・山本好和(秋田県大・生物資源)・吉村 庸(服部植物研・高知)

培養地衣菌 *Sarcographa tricos*a が生産するピロン化合物 / 山中寿城・O宮川恒(京大・院・農)・宮脇博巳(佐賀大・文化教育)・濱田信夫(大阪市環境科学研)

写真館 Photo Gallery

さて、何でしょう？

図 1 をご覧ください、緑の中からよきにょきと伸

びた白い足？一体何でしょう？もちろん地衣類に関係ありますよ、答えは次のページで、



図 1

図2



上の図2に示す、水辺の岩上の蘚苔類マットに生えていたツメゴケ属が、図1と関係があります。これを採集し、標本作製の過程で裏に付いていた蘚苔類マットをはがしたところ、偽根までむしり取ってしまったようです。図1で、足の裏のように広がっていたのは、偽根の地衣体への付着部（つまり脈の部分）が偽根にくっついてはがれたというわけです。

ツメゴケ属は、このように蘚苔類マット上に生えることが多く、これを取り除くのに一苦労しますね。時には1時間、2時間もかかります。ですが、ツメゴケ属の同定には、地衣体覆面の観察が必須ですから、偽根にも注意しながら丁寧に掃除したいですね。

写真：小林義弘（平塚市）

文：原田 浩（千葉県立中央博物館）

●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌42号148ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 42, p. 148 of this publication.

日本地衣学会ニュースレター 59号

発行日：2005年 11月 11日

編集：原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内